

■セイコーエプソン 86年10月4日 日経産業
石英ガラス

セイコーエプソンは、液相法（ゾルーゲル法）で石英ガラスを成型する技術を開発した。固相法や気相法に比べて、成型が容易で大型の石英ガラスが成型でき、コストも安い。

■古河電工 86年10月7日 日経産業
放射温度計

古河電工は、フッ化物ガラス赤外ファイバーを使った低温放射温度計を開発した。従来の石英ガラスファイバーを用いたタイプと異なり、400℃以下の低温領域の測定ができる上、放射率の低いアルミニウム鑄造工程等の温度測定も可能。

■旭硝子 86年10月13日 日刊工業
結晶化ガラスの新製法

旭硝子は、結晶化ガラス「クリストン」を開発、試験販売を開始した。ロールアウト法で連続的に元板をつくることにより、気泡を含まない均一な品質を実現した点が特徴、建築物の外装、内装等幅広い分野での利用が期待される。

■宇部興産 86年10月16日 日本工業
ニューセラミックス繊維のカラー化

宇部興産は、ポリチタノカルボキシランを原料とする自社開発のニューセラミック繊維「チラノ繊維」のカラー化に成功した。当面は濃紺とえんじ色の2色だが、今後他の色の品揃えも進め、スポーツ、レジャー分野向けの需要拡大を目指す。

■住友電工 86年10月20日 日刊工業
光ファイバーケーブルの海外生産拡大

住友電工は、光ファイバーケーブルの海外生産を拡大する。現地供給体制を強め、円高やハイテク摩擦による国際競争力の低下を防ぐのが狙い。進出先としては、欧州、中国、インド等が有力。

■村上開明堂 86年10月21日 日刊工業
自動防眩ミラー

村上開明堂は、全固体型エレクトロクロミック薄膜素子を調光素子として用いた自動防眩ミラー

「EC防眩ミラー」の開発に成功した。新技術開発事業団と日本光学工業の技術供与と技術協力を受けて商品化したもので、自動防眩機能を持つアウターミラーはわが国で初めて、来年11月を目途に量産化に踏み切る。

■住友金属鉱山 86年10月21日 日経産業
平板型GGGレーザー

住友金属鉱山は、GGG（ガドリニウム・カリウム・ガーネット）結晶を使った平板型大出力固体レーザーの開発に着手した。連続出力1KW級の大出力を目標とし、62年度中の完成を目指す。

■日本板硝子、大日本印刷 86年10月28日 日本工業
立体映像ガラス

日本板硝子と大日本印刷は、立体パターンが鮮やかに浮き出る立体映像ガラス「ホログラス」の開発に世界で初めて成功した。ホログラスは、従来の合わせガラス技術と立体写真の大量印刷技術から生み出された店舗装飾用の特殊な合わせガラスである。

■日本電気硝子、旭シェーベル 86年10月29日 日本工業

低誘電率Dガラスクロス

日本電気硝子と旭シェーベルは、超高速デジタル信号処理のニーズに対応する低誘電率、低誘導損失のDガラスクロス「D-40」の開発に成功し、サンプル出荷を開始した。

■旭硝子 86年10月29日 日本工業
太陽電池用カバーガラス

旭硝子は、人口衛星の太陽電池用カバーガラス

の開発に初めて成功し、宇宙開発事業団から宇宙開発用共通部品として認定を受けた。

■日本電気硝子 86年10月31日 日本工業
ガラス繊維協会に加盟

日本電気硝子は、硝子繊維協会に正式加盟した。この結果、ガラス長繊維メーカー7社すべてが協会に加わったことになり、業界の協調体制が確立され、過当競争体質からの脱却が図られるものとみられる。

■鈴木自工、名士試 86年11月5日 日経産業
曲がるセラミックス

鈴木自動車工業と名古屋工業試験場は、ジルコニアを使って「曲がるセラミックス」を開発する。ジルコニアは高温において大きく伸びる性質を持っており、この特性を利用して自由に折り曲げられる新素材をつくり出そうというもので、65年を目標に自動車部品として製品化する予定。

■泉陽硝子 86年11月18日 日刊工業
ガラスの粘性測定装置

泉陽硝子工業は、ガラス等高粘性流体の粘度を測定する「摩擦式ガラス粘性測定装置」を開発、商品化を進めることになった。この装置では、作業温度よりも低粘性域と軟化点以上の高粘性域の測定ができる。

■無機材研 86年11月26日 日本工業
硬質セラミックス膜

科学技術庁無機材質研究所は、耐食性に優れた硬質セラミックスの薄膜を金属やガラスにコーティングする技術を開発した。この技術はゾルーゲル法を応用したもので、熱処理温度が約500℃と低いのが特徴。

■電線大手 86年11月29日 日本経済
光ファイバー製法を転換

住友電気工業、古河電気工業、藤倉電線など電線大手は、光ファイバーの製法を新VAD（気相軸付け）法に転換した。この方法は石英管をまったく使わないため高品質の光ファイバーを生産でき、

製造コストも大幅に削減できる。

■旭硝子 86年12月2日 日経産業
磁気ディスクを合併生産

旭硝子は、米国の有力ディスクメーカー、コマック社に資本参加するとともに、折半出資で日本に合弁会社を設立、磁気ディスクの商業生産を開始する。当面はアルミ製ディスクで実績を積むが、将来はガラス製ディスクの量産に切り替える予定。

■東芝硝子 86年12月2日 日刊工業
台湾・華芝に技術援助

東芝硝子は、台湾の華芝玻璃股份有限公司との間で電球、蛍光灯用ガラスの技術援助契約を結んだ。期間は5年間で、製造技術や関連情報を供与する。

■オリベスト 86年12月9日 日刊工業
耐熱性ガラス繊維紙

オリベストは、アスベスト繊維紙より耐熱性、機械的強度に優れた新しいガラス繊維紙「ハイベスト」を開発した。ハイベストはガラス繊維をバークミキュライトという層状鉱物の薄片でコーティングしたもので、耐熱温度が約1000℃と大幅に向上した。

■セントラル硝子 86年12月10日 日経産業
発泡ガラス

セントラル硝子は、発泡ガラス製内外装材「セラフォーム」を開発した。低比重の本体と高比重の表面層を同じ原料で一体成型する技術を開発することで、発泡ガラスを表面部分の強度が要求される建材分野に応用することに成功した。

■旭ファイバークラス 86年12月12日 日刊工業
米社製ガラス繊維を販売

旭ファイバークラスは、米国オーエンス・コーニング・ファイバークラス社が開発した高性能ガラス繊維「S-2ガラス」の輸入販売を開始した。S-2ガラスは「Eガラス」に比べて引っぱり強度が約30%高い。